

平成30年度 学校経営方針 「世界で一番好きな学校」

多摩市立南鶴牧小学校
校長 関口 寿也

1 はじめに

近年の社会の変化はめまぐるしい。社会構造の変化、労働意識の変化、足元に火のついた環境問題と、枚挙に暇がない。学校に期待されることも様々であり、より複雑化、個別化の一途を辿っている。10年ひと昔のように同じように対応しては、次世代を担う子供たちの育成には甚だ不十分である。

一社会人として、これからの世界に希望と危機感とをもち、子供たちを育てる私たち教員が率先してそれを共有していく必要がある。本校の特性を最大限に有効活用し、課題を明らかにし、よりよい教育活動に向けて教職員が一丸となって取り組んでいくこと、それは絶え間ないブラッシュアップを意味する。

学校が子供の教育への発信者としての中核的役割を担い、地域、家庭、外部機関とより一層緊密な連携を図り、子供たちの育成を推進していく必要がある。それこそが、本校が持続発展可能な学校として進んでいく意義である。

2 学校経営の基本理念

- (1) 子どもの側に立った教育を推進する。
- (2) 教職員は、教育公務員としての自覚をもち、学校目標の達成に努める。
- (3) 学校・家庭・地域が連携・協力し、子供の「知」「徳」「体」を育む。

3 学校教育目標

かしこく なかよく ◎たくましく

4 めざす児童像

- (1) 確かな学力を身につけ、学習意欲の高い児童
- (2) 互いの人権を大切にし、豊かな感性をもち思いやりのある児童
- (3) 社会性や自主性があり、自立心が高い児童
- (4) 健康な心と体をもち、頑張り、やり遂げる児童

5 教育目標の達成に向けて

(1) 「かしこい」児童を育てるために

①「学習規律の確立」

- ・チャイムで始まりチャイムで終わる。姿勢の保持。
- ・我慢や忍耐を乗り越えたところに学ぶ喜びや楽しさがあることを実感させる。

②「基礎学力の習得」

- ・授業時数を確保し、子供が「わかった」「できた」と感じる授業となるように、常に授業を工夫・改善していく。
- ・家庭と連携し個に応じた家庭学習の定着を図る。

- ・学校図書館の活用、読書活動の推進を図る。

③「学びの質を高める」 (=E S D)

- ・体験活動は出発点。体験活動を活かした学びの深化。
- ・「子供だから」といった意識の排除、広い視点、予定調和でない学習計画。
- ・「総合的な学習の時間」を軸とした、問題解決学習の実践と発表（繰り返し）。

(2) 「なかよく」できる児童を育てるために

①「道徳教育の充実」

- ・指導の重点、B「親切・思いやり」の学級経営への盛り込み。
- ・道徳教科書の活用。保護者、G T等の授業への協力。

②「生活指導の充実と徹底」

- ・いじめ防止対策委員会を核とし、いじめの未然防止、早期発見に努め、子供たちが安心・安全に過ごせる学校・学級をつくる。
- ・「学校生活の約束」を使ってルールを理解させ守らせるようにする。
- ・言語環境を整える（あいさつや、正しい言葉遣いの指導）

③「人とのかかわりを重視した教育活動の実施」

- ・縦割り班活動を通して異年齢の子供と関わり、地域行事を通して大人と関わる。
- ・地域のお年寄りや外国の方々、保護者等をお招きした授業の工夫。

(3) 「たくましい」児童を育てるために

①「運動に親しむ資質や能力の育成」

- ・オリパラ教育推進校として、体育的行事や、体育の学習、遊びを通して運動の楽しさを味わわせ、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を育成する。

②「体力の向上」

- ・芝生校庭を活用した健康教育や保健指導を行う。
- ・体力テストの結果を踏まえ、「一学級一実践」を行う。（行内研究：体育科）

③「健康の保持増進」

- ・定期健診および、日々の健康観察を通し、子どもの健康状態をチェック。
- ・アレルギー疾患を対象とした「アレルギー対応委員会」を随時開催し、アレルギー疾患児童の把握と対応を共通理解する。
- ・「食物アレルギー緊急対応マニュアル」に基づいた教員研修の実施。

④「心のたくましさを身に付ける」

- ・ボランティアマインドを育む指導(募金活動、地域清掃等活動、国際貢献の講師等)。
- ・行事等を通した、くじけない心の育成と支援。

(4) 特色を活かした取り組み

①芝生の校庭

- ・芝生校庭で運動したり遊んだりし、そこで学べる喜びを感じさせ愛校心を育てる。
- ・芝生維持管理に携わる地域の方々と交流し、管理の仕方や感謝の気持ちを育てる。

②様々な体験学習

- ・ビオトープや芝生、果樹のなる木を活用した環境教育を推進する。

- ・農園や小動物を育てることで、命を大切にする心情を育てる。

③オリンピック・パラリンピック教育

- ・ユネスコスクールとして、アートマイル壁画共同制作プロジェクトに参加する。
- ・藍を育て藍染めを体験したりすることで、伝統文化とその背景に触れる。
- ・「たてわり班活動」「お年寄りとの交流」「幼・保育園児との交流」などを通してボランティアマインドを育てる。

④特別支援教室「わかば」との連携

- ・特別支援教室の指導法や教材教具を活用し、個に応じた指導を行う。
- ・ソーシャルスキルトレーニングの実施（1，2学期計10日間）。

⑤合唱団の活動

- ・合唱団の活動を支えることで、学校中に歌声を響かせ、音楽のすばらしさや歌うことの楽しさを感じさせる。
- ・やり遂げる充実感、発表での達成感を味わわせ、よい見本とする。

6 安全指導の推進

(1) 日常的な安全指導

- 必ず指導する基本的事項を身に付けさせるために、繰り返し一声かける指導を行う。
 - ・朝や帰りの会、給食の時間等

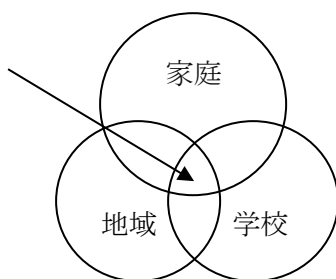
(2) 定期的な安全指導

- 「日常的な安全指導」で身に付けた知識等を体験的に理解させ深化させる。
 - ・避難訓練、防災訓練、交通安全教室、セーフティ教室、長期休業前の指導等

(3) 特設する安全指導

- 子供が、自分や他者の安全を守るためのよりよい行動などをじっくり考えさせる学習活動を行う。(教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動)

このエリアで子供は最も伸びる



【自分を伸ばす意志】

【理解し、刺激し合える交友関係】

【保護者や先生の支援】

【教育活動のしかけ】

すべてがうまく作用すると【自己有用感】が育まれる。